

ふいんてっく通信

～ Vol.9 ～

ポイント還元スタート、今後の課題は？

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

今年10月の消費税増税に合わせて始まったキャッシュレス・ポイント還元事業。最初の1週間のポイント還元金額は、地方スーパー1社の週間売上高（52週で除算）に匹敵する約60億円となりました。日本は今回の還元事業を起爆剤に、キャッシュレス決済比率は高まっていくと期待されます。

■ 還元事業でキャッシュレス決済が盛り上がる？

キャッシュレス決済導入で、店舗は現金を扱う手間が減り、決済に伴う各種データを利用した割引クーポン発行やポイント還元による集客効果が見込めるなどのメリットがあります。

利用者が支払いがスムーズになり、ポイントが貯まり、銀行を通さずに個人間送金ができるなどのメリットがあります。

しかし、サービス業者の乱立で何を利用すべきかわからない、といった不満も耳にします。この対応として、例えば複数のQRコード決済を一つにまとめるサービスが開始されました。

主なQRコード決済方法

※写真はイメージです。

提示型

スマホアプリで表示させたコードを店舗が読み取る



スキャン型

店舗のコードをスマホアプリのカメラ機能で読み取る



入力型

スマホアプリ上で店舗検索してユーザーが金額を入力する



■ 日常の買い物でキャッシュレス決済が広がるかがポイント

決済手段の利用実態をみると、電子マネー・スマホ決済は1,000円未満の少額決済に、クレジットカード決済はネット通販での3,000円以上の高額な買い物に、現金は日常の1,000～3,000円の買い物で主に利用されることが多いようです*。

*NECソリューションイノベータ「一般消費におけるキャッシュレス利用実態調査レポート」2019年9月版より

今回の還元事業をテコに、大幅なポイント還元など魅力的なサービスが広く認知され、1,000～3,000円の価格帯でキャッシュレス決済が現金にとって代われれば、日本のキャッシュレス決済比率は高まっていくと期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがフィンテックに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。